

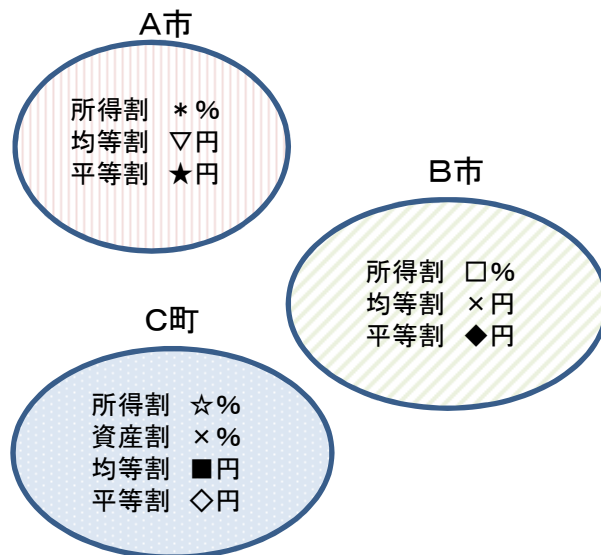
保険料水準の統一

平成36年度以降の出来るだけ早い時期の保険料水準の統一や更なる事務の効率化、標準化、広域化について検討し進めていきます。

(滋賀県国民健康保険運営方針 抜粋)

【現行】

市町が個別に保険料を設定



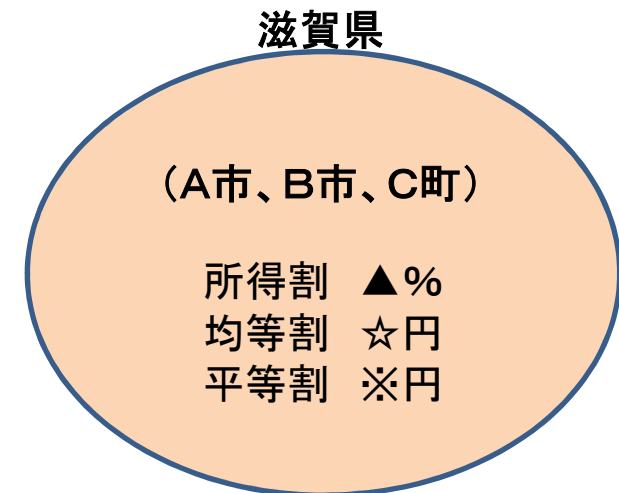
・市町の財政状況等により各市町の保険料は異なっている。

県内統一
ルールの設定



【保険料水準の統一】

県が統一保険料を設定

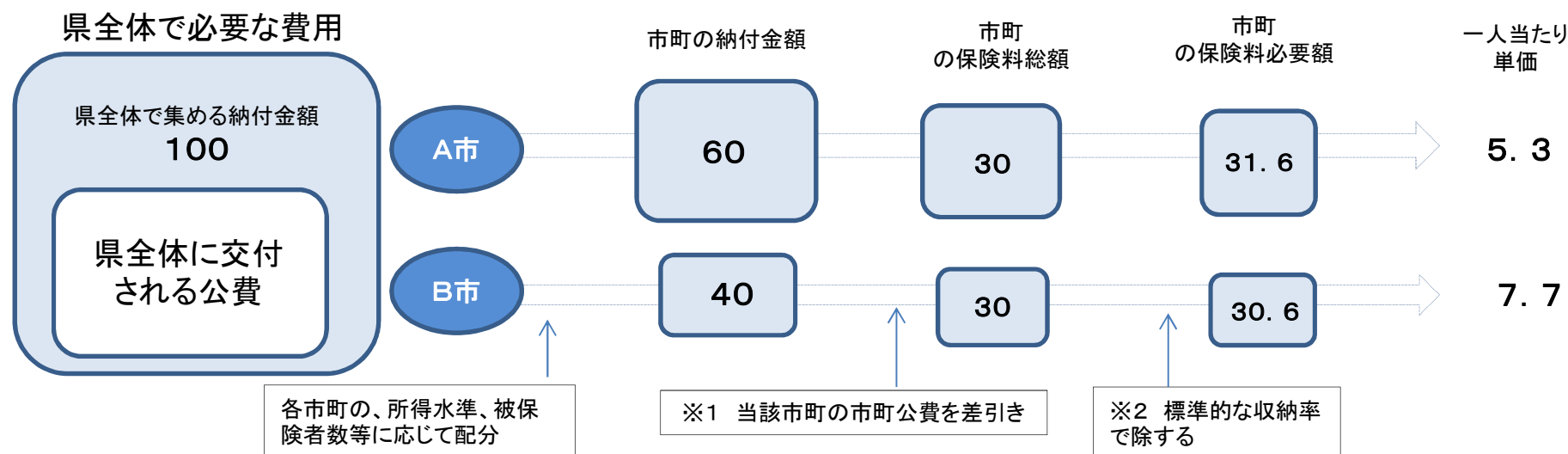


・県内のどこに住んでいても、同じ所得、同じ世帯構成であれば同じ保険料となる。

現行の納付金・保険料の算定過程

【例】

- 県全体で集める納付金額を100とする。(県全体に必要な費用－県全体に交付される公費)
- 県全体の納付金を分ける割合(各市町の所得水準、被保険者数等)をA市 0.6、B市 0.4とする。
- 県全体の被保険者数を10人とし、A市 6人、B市 4人とする。



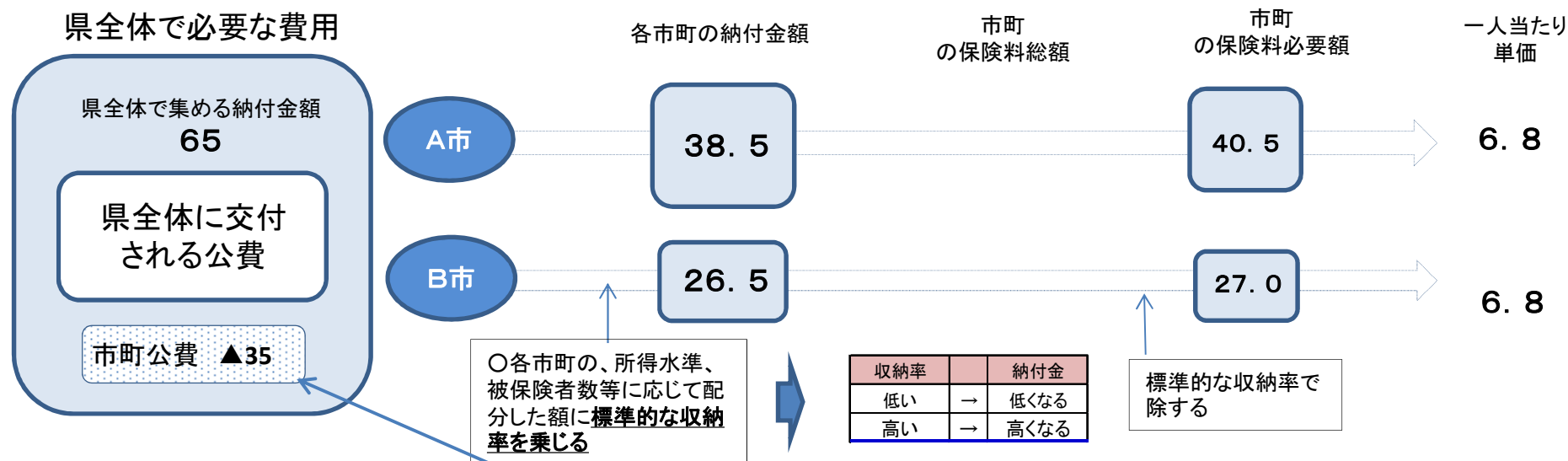
	県全体で 集める 納付金額		納付金を分 ける割合		調整係数		市町の 納付金額		市町 公費 ※1		保険料 総額		標準的な 収納率 ※2		保険料 必要額		被保険者数		1人当たり 単価		
A市	100	×	0.6	×			$\gamma(1)$	=	60	－	30	=	30	÷	95%	=	31.6	÷	6	=	5.3
B市	100	×	0.4	×			$\gamma(1)$	=	40	－	10	=	30	÷	98%	=	30.6	÷	4	=	7.7
計									100		40		60				62.2				

※1 「市町公費」=(公費等－事業費)は、市町が独自に算出

※2 「標準的な収納率」は、滋賀県国民健康保険運営方針に考え方を規定

統一保険料の納付金・保険料の算定過程

※前提条件は前頁と同じ



【ポイント2】										【ポイント1】												
	県全体で集める納付金額		納付金を分ける割合		標準的な収納率		調整係数		市町の納付金額		市町公費		保険料総額		標準的な収納率		保険料必要額		被保険者数		1人当たり単価	
A市	65	×	0.6	×	95%	×	γ	=	38.5	-	0	=	38.5	÷	95%	=	40.5	÷	6	=	6.8	
B市	65	×	0.4	×	98%	×	γ	=	26.5	-	0	=	26.5	÷	98%	=	27.0	÷	4	=	6.8	
計									65.0				65.0				67.6					
										γ 1.03950104												

保険料の財源としない(▲5)

「ポイント2」 各市町の納付金を算定する時、標準的な収納率を乗じる。

市町の収納率の差によって保険料に差がつくのをさけるため、あらかじめ納付金額の調整をしておく。

「ポイント1」 市町に配分される公費と市町の事業費(保健事業等)「市町公費」と言う。)の一定の範囲を県全体で分かち合う。

→ 市町公費の一定の範囲(35)を県全体で集める納付金額の算定時に含める。
(前頁の県全体で集める納付金額 100 - 市町公費 35 = 65 統一後県全体で集める納付金額)